

金日成主席：朝鮮の歴史と文化に根をおろした祖国を建設

ラテンアメリカチュチェ思想研究所副理事長
ベネズエラ・チュチェ思想研究所所長
オマール・ロペス

金日成主席は日本帝国主義が朝鮮を併呑し、植民地化してから 2 年後である 1912 年 4 月 15 日、万景台で誕生しました。この植民地化の過程は朝鮮のすべての権力が日本の天皇に強制的に移譲された「日韓併合条約」を通じて実現されました。朝鮮の自主権にたいするこの侵略は、朝鮮の独立運動を援助しないことを約束したアメリカの支援を受けました。

朝鮮民族の単一性と歴史、文化は、体系的な抹殺段階に入りました。

これには 1923 年、朝鮮語教育の禁止、そして国家書類（公共機関、法律機関、学校）で朝鮮語を使用禁止にし日本語を使用させたことも含まれます。

日本帝国主義に反対する金日成主席の闘争が、軍事分野だけでなく、朝鮮人民の心から人民と祖国にたいする概念を払拭しようとする企図とも対抗しなければならなかったという点について強調する必要があります。

日本帝国主義に投降した搾取階級が、日本帝国主義のこうした文化歴史抹殺策動に力添えをし、これには今後朝鮮半島をこの地域での膨張主義政策実現の基盤にしようとするアメリカも積極的に加担しました。アメリカの政策は、卑屈な日本政府の支援のもとに南朝鮮の手先によって今日まで続いています。

金日成主席は日本帝国主義から国を解放した後、朝鮮を変貌させるためにたたかいました。

金日成主席は次のように述べています。

「資本主義や封建社会は、いずれも富める者が勤労者大衆を搾取してぜいたくをする社会だ。独立後、朝鮮にそんな不公平な社会をつくるわけにはいかない。機械文明の発達に目を奪われて資本主義の病弊を見ないなら、それは誤りだ。封建王朝を再建するというのも論外だ。国を外部勢力に売り渡した王政になぜ未練をもつのか。いったい歴代の王がやったことはなにか。民衆を搾り、正論を吐く忠臣を流罪に処し、首をはねたことのほかになにをしたというのか。

われわれは朝鮮の独立後、祖国に搾取と抑圧のない社会、労働者、農民をはじめ勤労者大衆が幸せに暮らせる社会を築かなければならない…」

日本帝国主義が抹殺しようとしたその歴史文化遺産は今日、朝鮮民主主義人

民共和国の尊厳であり、勇敢な人民を革命へと導くのに必要です。

朝鮮民主主義人民共和国の創建（1948年9月9日）以前に創立された朝鮮労働党（1945年10月10日）は、朝鮮人民の思想的修養と朝鮮革命において肯定的な役割を果たしました。

金日成主席は回顧録で次のように述べています。

「朝鮮共産党は、現実に対応した指導思想に欠け、隊列の統一を保てず、大衆のなかに深く根を張れないなどの根本的制約によって、労働者階級の前衛としての役割を十分に果たせなかったが、その創立は新旧思潮の交代と民族解放闘争の質的变化を示す意義ある出来事として、労働運動、農民運動、青年運動などの大衆運動と民族解放運動の発展を促した」

われわれは20世紀に起こった革命的出来事を通じて10月革命後、諸国でボルシェビキ党の複写版である「共産党」がどのように生まれ、レーニンがソビエト社会主義共和国連盟を創建したことについてよく知っています。

金日成主席は、チュチェ型の革命的党を創立するために闘いました。

金日成主席は回顧録『「世紀とともに」』で次のように述べています。

「初期の共産主義者は事大主義にとらわれて、自力で党を建設し革命を進めようとはせず、各自『正統派』をもって任じ、ジャガイモの印鑑までつくってコミンテルンの承認を得ようと駆けずりまわった。

わたしはわが国の民族主義運動と初期共産主義運動のこうした実態を分析し、革命をそういうやり方で進めてはならないと痛感した。

こうしてわたしは、自国の革命は自らが責任をもち、自国人民の力に依拠して遂行してこそ勝利するのであり、革命で提起されるすべての問題を自主的に、創造的に解決していかなければならないという信念をいだくようになった。これがいまいつているチュチェ思想の出発点となったのである」

われわれは、金日成主席を民族解放と民族自決を実現しようとする諸国人民の活動と方向の先導者と思っています。

幅広くて多様な金日成主席の歴史および政治遺産は今日、朝鮮民主主義人民共和国の政治、経済、軍事、文化および社会生活を導いていくチュチェ思想の創始と全面的な体系化、その発展豊富化の過程を通じて要約して見ることができます。